



子育て通信

令和8年 4月

第348号



なんくる



みどり子育て支援センター「なんくる家」那覇市首里石嶺町4-216-3 (みどり保育園)

電話：098-886-6044

ホームページ <http://midori-okinawa.com/>e-mail nankuruya310@gmail.com

ヒスイカズラ 驚きの花数壮観なり まるで深海のごとき

やんばるの山々が若葉をたたえ、森全体が若がえるうりずんの季節を迎えました。2月3月に降った雨が森の潤いを育て瑞々しい新芽をたたえるのだといわれていますね。

園の裏のサクラは小さなサクランボを実らせています。それを目当てに数々の小鳥たちが飛び交います。小動物の楽園のごとき風景です。夜にはコウモリまでもやってきます。そして初夏を迎えるころにはホタルも小さな宝石を届けてくれます。

首里の石嶺にある子育て支援センターなんくる家は目立たない場所に有りながらも自然を満喫できる場所に30年余さりげなく子育ての応援をすることを目的に事業を行っています。

平成3年に始めた自主事業の「なんくる家」でした。周りはサトウキビ畑が広がる農地のなかでした。

それから、時代は変わり、コロナ禍を経験し、生活主体も変化し、働き方改革も進み、私などついていけない焦りを感じてしまいます。

しかし、子どもたちの成長の順序は変わりません。太陽が出る時間も水平線から消えていく時間も百年前と同じです。子どもが母親を求め父親に見守られながら成長する営みにも全く進化も変化もありません。成長には、一人一人のペースがあるのもかわりません。「その時」を、待っているかのように自分の内なる成長の疼きがあるのです。人間も自然の一部だと思ってしまうのです。

何億年も変わらず親は子を育み自立まで預かります。

もうすぐ旧暦の「浜うり」大潮には海の水もぬるみ、健康祈願に海へとでかけます。

「シーミー」(清明)の節も迎えます。テッポウユリが深いみどりの森の中でつぼみを膨らませています。それらは全てが子育てと同じ次元で伝承されてきた営み。愛し認められてお互いに大切にされ居心地のよいセンターを目指します。

私ごとですが、長くお休みをとらせていただきました。このお便りを書くのも遅くなりました。許容ください。今年も笑顔でお迎えます。いつでも誰でもいらっしやいの心忘れません。

「夫逝きし日 春キャベツ届き また涙」

みどり保育園では、地域子育て支援の一環として、子どもの発育相談などいつでも相談にのります。親の子育ての悩みはもちろん、子どもの特性など一緒に考えて必要なところへ繋がります。

 お車でお越しの際は、みどり保育園の契約駐車場「ドミールK(アパート) 駐車場の3番から12番」をご利用下さい。

